

「ぼくは ぼんこつ じはんき」

由美村嬉々文、山本久美子 絵



自販機の「ぼく」は海
の見える土地に住み、熱
々のうどんとそばを年中
無休で提供している。親
子連れにカップル、長距
離トラックの運転手な
ど、いろんな人が来る。
でも、40年も働き続け
ているから故障が多く、
みんなから「ぼんこつ
じはんき」と呼ばれている。



ある日、ついにぼくのからだに「閉店」のお知らせが張られー。

秋田市内で稼働する自販機がモデル。多くの人が
心のよりどころとする自販機を巡る、人情味あふれる
物語。 (あさ出版・1540円)

